

令和4年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	市政結和
議員名	金濱元一・我妻静夫・岡田健一・早川昇三・南川達彦・鈴木和彦
調査実施年月日	令和4年11月10日
調査先 自治体名等	富山県富山市
調査項目	スマートシティ推進事業について
調査目的	市民中心のスマートシティ(まちづくり)について
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口: 414,102人 行政面積: 1,241.70km²</p> <p>2 視察内容</p> <p>① 概要</p> <p>富山市は、人口減少や超高齢社会の進行を見据え、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」に取り組み、人口の転入超過や地価の上昇などの様々な成果を生み、国内外から高い評価を受ける一方、郊外や中山間地域に住む市民の中には政策の効果が実感しにくいとの声があり、さらに近年は、市民ニーズが多様化、それに伴い行政課題も複雑化・高度化しており、行政だけで課題を解決していくことが困難になってきたことから、近年目覚ましい発展をみせるデジタル技術を活用して、「コンパクトなまちづくり」を“深化”させ、産学官民が連携して地域課題の解決を図るスマートシティ政策に取り組んでいます。</p> <p>② 富山市スマートシティ推進ビジョン(案)</p> <p>富山市は、これまで進めてきたコンパクトシティ政策の継続と、さらに市民生活の質や利便性を向上させるとともに、地域特性に応じた市域全体の均衡ある発展を目指すことを「目的」に、その実現のための「手段」としてスマートシティ政策に取り組んでいます。スマートシティ政策によって提供されるサービスは市民の皆さまが求めるものであり、かつ、その恩恵を実感できるものであることが重要であると考え、国の「スマートシティガイドブック」なども参考にしながら、①コンパクトシティ政策をスマートシティ政策で補完し、深化させる。②サービス提供者(行政・企業)の目線ではなく、サービス利用者(市民)の目線で検討。③「手段」としての技術やデータではなく「目的」としてのビジョン・課題にフォーカスする。の3つの方向性(基本理念)から検討を進めています。</p> <p>◇本ビジョンの位置づけ</p> <p>・「富山市スマートシティ推進ビジョン」は、市の最上位計画である総合計画との整合を図りつつ、スマートシティ推進の観点から、すべての個別部門計画に対する総合的な指針となっている。</p> <p>また、スマートシティは行政だけで推進するものではなく、立場や視点が異なる産学官民がスマートシティの方向性を共有し行動する。</p> <p>◇本ビジョンの全体像</p> <p>・本ビジョンは、市民の皆さまの意見をもとに、「3つのまちづくりの目標」「9つの施策テーマ」「27の取組の方向性」によって目指す将来像を実現する構造とし、「取組の方向性」は総合計画の「施策の方向」と整合している。</p> <p>・3つのまちづくりの目標〔1〕～〔3〕と9つの施策テーマ(①～⑨)</p> <p>〔1〕誰一人取り残されことなく便利で安心して暮らせるまち</p>

①便利な暮らし ②安心・安全で健康な暮らし

[2]地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち

③誇れるものがある暮らし ④心が豊かでワクワクできる暮らし

⑤子どもの笑顔があふれる暮らし ⑥若い世代の活気に満ちた暮らし

[3]互いの地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち

⑦人と人のつながりがある暮らし

⑧地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし

⑨産学官民の共創が生まれる暮らし

・9つの施策テーマ(①～⑨)を実現するための27の取り組みの方向性

①便利な暮らし

1)車がなくても移動できる 2)どこでも必要なモノ・コト・情報を入手できる

3)どこでも仕事や勉強ができる

②安心・安全で健康な暮らし

4)どこでも医療・介護・健康サービスが受けられる 5)事故や犯罪がなく治安が良い 6)雪や災害・感染症に対する備えができています

③誇れるものがある暮らし

7)伝統や文化が大切に継承されている 8)美しく豊かな自然が維持されている 9)地域の魅力が発信できている

④心が豊かでワクワクできる暮らし

10)個性や長所が尊重されている 11)外出したくなる個性的・魅力的な場がある 12)芸術文化・スポーツに親しんでいる

⑤子どもの笑顔があふれる暮らし

13)子どもの多様な学び・交流・体験の場がある 14)学校に行くのが楽し気になる 15)地域ぐるみで子育てがサポートされている ⑥若い世代の活気に満ちた暮らし

16)仕事の魅力で働き方も多様である 17)挑戦者が応援してもらえる 18)若い世代の意見が尊重される

⑦人と人のつながりがある暮らし

19)困りごとを気軽に相談できる 20)助けあい支えあいの輪が広がる

21)安心して参加できるコミュニティがある

⑧地域の魅力を分かちあい支えあえる暮らし

22)つくる人とたべる(つかう)人がつながっている 23)地域の魅力が新たな交流を生んでいる 24)あらゆる活動に次世代への配慮がある

⑨産学官民の共創が生まれる暮らし

25)未来への学びと対話の機会がある 26)新たなビジネスが生まれている 27)市民が主体的にまちづくりに参画している

◇重点領域

スマートシティ政策の推進に当たって27の取組の方向性を着実に取組むと共に、まちづくりの3つの目標ごとに「重点領域」を定め、優先して取り組んでいる。

◇推進体制

市民ニーズや地域課題とのマッチングを図り、企業・団体による創造性の高い提案を促すため、スマートシティ推進課に「ワンストップ窓口」を設置し、公共財を活用し、かつ複数所属にまたがる提案については、推進主体である富山市

	<p>スマートシティ推進本部において「ワーキンググループ」を設置し、事業化に向けた調査・検討を行なっている。</p> <p>◇推進方針</p> <p>スマートシティ政策は、産学官民の関係者が本ビジョンを共有したうえで、共通理解の下で進めていく必要があることから、①データの利活用と意識醸成②デジタル人材を増やす／デジタル人材になる③デジタル格差の解消／情報リテラシー（理解度）の向上の3つの推進方針を設定している。また、産学官民それぞれに期待する項目を明記し、グランドルール（産学民官の様々な参加者が活発に協議しながら、共にスマートシティを推進するための共通認識として定める大枠のルール）を定め、「富山市版スマートシティ」を推進している。</p> <p>さらに、KPI がビジョンと各事業をつなぐ役割を果たすことで、ビジョン実現に資する事業が推進される設計とし、今後は国がスマートシティ事業の進捗管理で推奨するロジックモデルや LWCI も参考にしつつ、個別具体の事業計画について検討しており、グランドルールに基づき、サービス設計・創出、データ管理・連携、人材育成・市民参加に取り組むにあたってのロードマップも示している。</p>
<p>感想（まとめ）</p> <p>本市へ生かせること</p> <p>等</p>	<p>本市においてもコンパクトシティに取り組み、居住誘導区域、都市機能誘導区域等を定めまちづくりに取り組んでいます。室蘭市も富山市同様山坂が多いまちで、富山市では、中山間地域をはじめとする郊外部においても、子どもからお年寄りまでのすべての世代が不安や不便を感じることなく安心して暮らせるまちを目指すため、近年目覚ましい発展をみせるデジタル技術を活用して、「コンパクトなまちづくり」を“深化”させる取り組みを行っており、大変参考になりました。</p>